



【感謝を表すことがさらに神に祝福される秘訣です。】

今日の聖書:ルカの福音書17章11-19節/ 暗唱聖句:テサロニケ人への手紙第一5:18

説教者:鄭南哲 牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。

今日はまた新しい2015年度のクリスチャンプレイズチャーチの信徒総会が開かれる主日であります。昨年我々の教会では「一生感謝して行く主の教会」というタイトルの教会の標語を持って目指して来ました。愛するみなさんは一年間一生感謝して行く元年(がんねん)となりましたか。以前より感謝が溢れていましたか。すでに我々が聖書を通して4つの感謝のレベルがある事を我々は教えられました。みなさんはどのぐらいの感謝のレベルまで進んで来ていると思われるでしょうか。もう一度、新しい2015年度の教会の標語を立てる前、最後に一生感謝して行くために感謝について共に学んで生きたいと願います。

今日の本文であるルカの福音書17章は特に感謝に関する御言葉を分かち合う時引用される御言葉です。イエス様がこの出来事の中で教えようとしておられることは他の何よりも感謝について、そして感謝の大切さであります。イエス様は10人のらい病の患者を癒してくださいました。その10人のツアラウトに冒された(らい病人)患者の中で癒された後イエス様に来て感謝をささげた人はたった一人だけでした。それも当時身分的に無視され、軽蔑されたいたサマリヤの人でした。イエス様はサマリヤ人の感謝に感激しました。そして彼にさらなる恵みを与えて下さいました。感謝がさらなる大きいな感謝を招いたのです。この御言葉をとおして我々は感謝の力をもっと学ぶ事ができると信じます。感謝の威力とその祝福をもう一度覚えて生きたいと願います。

<1. 恵みを受けた人は多くいますが、感謝する人は少ないです。>

イエス様は恵みの主です。イエス様にあつては恵みと真理に満ちています。(ヨハネ1:14)

イエス様は行かれるところどころで神の恵みを施してくださいました。恵みとはプレゼントのようなものです。値なしにただ与えるのが恵みです。ある日イエス様がエルサレムに行く途中、サマリヤとガリラヤの間を歩いて行かれました。(ルカ17:11-13)

この箇所を注目する必要がありますが、10人のツアラウトに冒された人たちが住んでいるところはサマリヤとガリラヤの間です。そこはどこにも属してない町外れのところでした。当時ツアラウトに冒された患者たちは神に呪われたとみなし、一緒に町で暮らす事が許されず、隔離(かくり)されていました。ツアラウトに冒された患者らと接触するとすぐ移ってしまい同じくらい病にかかると信じていたので、らい病の患者らを徹底的に隔離させました。彼らは阻害されたまま生きていました。サマリヤに属することも、ガリラヤに属することもできないほどのみじめな生活を送っていました。サマリヤとガリラヤの間にあるある村に留まりながら死ぬ日だけを待っていた絶望のところでした。イエス様がたずねられたところはもう人の力ではどうしようもできない絶望の真ん中そこだったのです。そこに主イエスキリストは恵みを施すためにわざわざ尋ねて下さったのです。多くのらい病の患者らの中で10人の患者にたずねられたのは特別な恩寵の出来事でした。10人の患者らは思いもよらぬイエス様の訪問とともに思いもよらぬ神の恵みを受けました。彼らは声をあげてイエス様にあわれみを施してくださいさうにと懇願しました。イエス様は彼らにあわれみを施してあげました。

当時、ツアラウトに冒された患者は自分の病気が治ったと思うと祭司に行き、見せる事になっていました。10人のツアラウトに冒されたの患者らはイエス様のお言葉を信じて即(そく)、従いました。ところが、いつらい病がなおったのかその時点をはっきり分かりません。確実なのはイエス様が言われたその時癒されたのではありません。彼らがイエス様のおっしゃるとおりに祭司に行き彼らの体を見せるために行く途中できれいになったわけです。ルカの福音書17章14節です。“イエスはこれを見て言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中できよめられた” 10人のツアラウトに冒された患者らは癒された時、みな驚き感激したと思います。しかし、その中で一人だけが直ったことを確認してからすぐ引き返して来てイエス様にひれ伏して感謝をあらわしました。

“そのうちのひとり、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返してきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。(ルカ17:15-16)”

イエス様はサマリヤ人にたずねます。“そこでイエスは言われた。「十人きよめられたのではないか。九人はどこにいるのか。神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。(ルカ17:17-18)”

イエス様も残念がっていたようです。どうしてひとりだけが来て感謝をささげるのかと言われたことにはイエス様の心、感情が含まれています。

愛する信仰の家族のみなさん! 当時も、今日も恵みを受ける人は多くても感謝する人はその時よりも少ないようです。それをもって少数です。感謝することができたサマリヤ人は感謝をささげた後、イエスキリストにさらに大きな祝福を受けました。肉体的な救いを越えて霊的救いを受ける事になります(ルカ17:19)。この世に住んでいる人たちの中で神様の恵みを受けてない人はだれもいません。神様の恩寵には一般恩寵もあるし、特別恩寵があります。一般恩寵は誰にも照らされる太陽とだれにも与えられる空気、水のようなものです。我々の体の中には自然治癒力(ちゆりよく)があつて病気になってからも深刻な病気でなければ、自然になおる場合もあります。何日か休んだり、一日ぐっすり寝て起きればなおります。これが神様がすべての人に与えられた一般恩寵です。特別恩寵は神様に会ってたましいが救われることです。永遠の命を得ることです。神様に選ばれた子どもになるのです。イエス様を信じる人々が受ける恩寵はまさに特別恩寵なのです。

しかし、神様の恵みを受けた全人類の中で感謝する人は少ないです。ルカの福音書17章の御言葉をとおして我々は10人の中で一人くらいだけが感謝する生活をしているのがわかります。もし、我々が今日から感謝することを決心して生活するなら祝福された少数になれると信じます。感謝する人には明るい未来が待っています。神様が供えてくださるさらなる祝福と恵みが待っています。つづやいたり、うらむ人には決して味わうことのできない恵みが待っています。

9人のツアラアトに冒された患者たちには感謝する心がなかったのでしょうか。違うと思います。もちろん感謝する心は持っていたはずですが、感謝を表すことができませんでした。感謝する心を持っていたとしても感謝を表さないなら感謝する心、その気持ち自体はあまり役にたちません。もちろん、感謝する気持ちを持っているだけでも尊いかも知れません。なぜなら、病気を治された後、その感謝を失われたまま、ツアラアトに冒された患者として生きて来た日をくやしがつてしまうよりは良いかも知れないからです。そして、ツアラアトに冒された時受けた傷といった痛みを仕返ししようとする心を持つよりかはいいかも知れません。同じく恵みを受けましたが、その恵みに対する反応によって、とてつもない差が生じてしまいます。

<2. 感謝とは何ですか。>

1) 感謝とは受けた恵みを受けたと表すことです。

感謝とはある意味とっても単純です。受けたことを受けたとあらわすのが感謝です。難しいことはありません。しかし、受けたことを受けたと表す人は多くありません。感謝を表すことができたサマリヤ人から私たちは感謝の原則を学ばされます。感謝も学ばなければなりません。感謝をよく表せる方々は親や誰かから感謝することをよく学ばされ、訓練された方です。感謝とは霊性の訓練であり、霊的成熟の絶頂です。感謝捧げる事こそは神を崇める一番大事なきよい姿勢であり、習慣です。感謝するためには考えが深くなければなりません。考え(think)から感謝(thank)が引き出されます。「感謝」表す英語はthankと、「考える」という単語「think」は、語源が一緒です。有名な哲学者であったマルティンハイデッガーは、「考えるということは感謝するということだ。」と言いました。また、イギリスに清教徒教会の壁には、「考えなさい。そして感謝しなさい。」という言葉が刻まれています。さらに興味深いのは、「考える」は「記憶する、覚える」の語源と関連しているという点ですが、ヘブル語で「ザハール(Zakhar)」です。ですから、「考え」、「記憶」、「感謝」は、同じ血筋にあたる兄弟のような言葉なのです。これをもとに、次のように定義をすることが出来ると思います。「感謝は、単純にその時、その時感じるありがたい気分の情緒(じょうしよ)的反応ではなく、考え、記憶する認識と意思の領域である」と言う事です。

“わがたましいよ。主を ほめたたえよ。主の良くてくださったことを何一つ忘れるな。(詩篇(Psalms) 103篇2節)”

はじめ、恵みを受けた時いただいた心、初心を忘れないことです。その時、感謝が湧き出ます。9人の人たちはそれをすぐ失ったのではないのでしょうか。

旧約聖書で感謝という言葉はヘブル語で‘トダ(Toda)’と言いますが、この意味には‘喜んで歌を歌う、感謝のいけにえをささげる、ありがたいことを告白する’と言う意味です。この意味で一つ教えられるところがあります。感謝はその心、品性を表さなければならぬことです。歌で、いけにえで、言葉の告白で表現することが真の感謝であることが分かります。特にこの感謝ヘブル語‘トダ(Toda)’と言う言葉はもともと愛する夫婦がお互いに夫婦関係を結ぶ行動によって体が一つとなってお互いに深く知ることができた時に使われた言葉 という意味の‘ヤダ(Yada)’と言う言葉から派生(はせい)された言葉であることを知る必要があります。感謝のトダ(Toda)の語源となる知る意味のヤダ(Yada)との関係をとって分かることは、我々も神様を経験し、神様を知ることができる人が真の感謝を知り、表すことができるという意味なのです。

苦しみの時、大声で叫びながら祈ることはだれでもできます。しかし、祈りが答えられたとき、声をあげて感謝することはだれもができることではありません。10人のらい病の患者たちはいっせいに声をあげてイエス様にあわれみを求めました。しかし、彼らが治された後、九人は感謝の声をあげませんでした。ただサマリヤ人だけが大声で神様をほめたたえました。

“そのうちのひとり、自分のいやされたことがわかったと、大声で神をほめたたえながら引き返してきて(ルカ17:15)”

このサマリヤ人は自分の以前の姿と癒された後の姿がどれだけ違うのかを知っていました。彼は癒された自分の姿をみて大声で神様に栄光をささげました。

2) そして感謝は過分な心、つまり謙虚な心から始まります。

ですから、感謝する人の特徴は私とみなさんも御存知のとおり謙遜さであることがわかります。高慢な人は感謝しません。高慢な人は満足がありません。神様から与えられた恵みを当然のように考えるだけではなく、自分をもっと大きい恵みを受けるべきなのにこれしか恵みを受けてないのだとつづやきます。うらむことが多くあります。当然不幸に思うことしか考えられないです。

“私は感謝することができないのに幸せな人は一度も見たことがない。(ジグズグラ(Zig Ziglar))”

謙遜な人は過分に思います。自分の身にあまるほどの恵み、過分な愛を受けているのだと思います。謙遜な人にくやしさはありません。ただ過分な心だけがあります。

愛するみなさん! なぜ 9人のユダヤ人たちは感謝を表せませんでしたか。

それはきっとユダヤ人たちが持っている自慢の心があったかも知れません。ユダヤ人たちは神様の恵みを当然のように思われたかも知れません。彼らは神様の選ばれた民だったため、神様の特別な恵みを受けて当然だと思っていたかも知れません。反面、サマリヤ人は異邦人です。彼は祭司に行き彼れを見せることすらできませんでした。そんなわけで、サマリヤ人は神様の恵みを受けた時、自分の身にあまるほどの恵みだと思いました。感謝する心は過分に思う心です。それが謙遜な心です。自分の身にあまるほどだと思って生きている人はすべてが神様の恵みです。わずかなものでも神様の奇跡のように思います。そんなわけで幸せです。ですから、感謝する人は幸せです。

<3. 感謝する人にはどんなことが起きますか。>

1) 小さいことにも感謝することはさらなる恵みと祝福を受ける通路になります。

今日10人の中、たったひとりサマリヤ人だけが感激の中で、イエス様に引き返ってきて感謝をささげました。もしかすると自分を癒して下さったイエス様に感謝するのは当然のことだったかもしれませんが、感謝の結果はすばらしいものでした。イエス様に認められ、イエス様に愛されました。イエス様はサマリヤ人の信仰をほめながら彼に救いの確信まで与えて下さいました。

“それからその人に言われた。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを直したのです。(ルカ17:19)”

9人のらい病の患者たちは自分の病気が治されたことで神の祝福が終わりました。もちろん、それだけでも大いに感謝すべきことですが、とつても残念です。もし、彼らがイエス様に戻ってきて感謝をささげたなら、彼らもさらなる恵みを受けたはずですが、

2) 感謝を通してさらなる成熟した信仰の人になります。

なぜ感謝が大切でしょうか。感謝するとすべての環境において感謝することのできる条件を見出すことができるからです。感謝は成熟の尺度(しゃくど)であり、とつても大切な基準になります。感謝は成熟した人だけができることです。しかし、覚えるべきことは、感謝ができる時だけ感謝することは小さい子どもでもでき可能です。しかし、問題は感謝ができない時でも感謝ができるならそれは、まことに成熟したクリスチャンになると信じます。

聖書の注釈者として有名だったマティユーハンリー(Matthew Henry)先生がある日夜道(よみち)を歩いていた時強盗にあいました。しかし、彼は家に帰って来て次のような日記を書き残しました。

“私は感謝する。一つ目、昨日まで一度も強盗に会ったことがなかったからだ。二つ目、私の財布は取られたとしても、私の命はとられなかったからだ。三つ目、私のもっているすべてが取られたのだが、それは大した物ではない。四つ目、私自身が強盗ではなく、強盗に襲われた者だからだ。”

3) 感謝する人はさらに神のため用いられる者になります。

サマリヤ人は感謝をとつてもっと明るい未来を開くことができました。神様にささげた感謝をとつて、彼は信仰の人になり、永遠の未来を得ることができました。小さい子どもに感謝を教えれば、その子どもの未来はかならず、明るくなります。幸せになる可能性が高いです。ほかの人々に愛される確率が高いです。感謝すると逆境を乗り越える力が与えられます。逆境の中で、感謝すると夢をいただきます。感謝は健康の秘訣です。神様は感謝のできる人のためにすばらしい祝福を備えてくださっております。

例え) 全世界的に尊敬されている故ネルソンマンデラ(Nelson Mandela) 元南アフリカ共和国大統領は世界首相(2013. 12.5.95歳で死去)の中で一番牢屋に長く入っていた人です。なんと27年間も牢屋の生活をしました。彼が出獄(しゅつご)した時、人々はマンデラがとつてもやせた状態が出てくると思っていました。ところが70歳も越えたのにもかかわらず、彼はとつても健康で、たくましい姿で歩いて出て来ました。取材に来たある記者が質問しました。“普通の人でも5年も牢屋の生活をしても健康を失って出てくるのに、どうやって27年間も牢屋で生活してこんなに健康であることのできる秘訣はなんのでしょうか。”すると彼はこう答えました。“私は牢屋においても神様にいつも感謝しました。空をみても感謝し、地面をみても感謝し、水を飲みながらも感謝し、食事を食べながらも感謝し、強制労働をする時も感謝し、いつも感謝をささげたため、健康を守ることができました。”

ネルソンマンデラ大統領が牢屋でいながらも健康が守られた秘訣はまさしく感謝にありました。感謝は彼を赦す人にさせました。牢屋から出てきた後彼は大統領に当選されました。さらにノーベル平和賞を受賞しました。牢屋においても自由を満喫し、牢屋においても夢をいただくことができた力は感謝にありました。

<4. メッセージのまとめ>

神様は小さい感謝をとつてもっと感謝があふれるように祝福して下さる方です。マンデラが牢屋でささげた小さな感謝は ノーベル平和賞を受賞しながら感謝し、大統領として仕えながら感謝するようにとさせたのです。

感謝は神様の御心です。“すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。テサロニケ人への手紙5章18節(1Thessalonians) (I give thanks in all circumstances, for this is God's will for you in Christ Jesus.)”

感謝は恵みを受ける秘訣です。感謝は受けた祝福をさらに大きく育てる秘訣です。自足の秘訣であり、幸せの秘訣です。人生勝利への秘訣です。人生逆転の秘訣です。苦難の期間を耐え忍べる秘訣です。小さい感謝が波長(はちよう)を起こします。我々みな感謝する人になりましょう。今日イエス様はサマリヤ人の一人の感謝にも喜ばれました。神様は感謝する人のためにさらに大きい恵み、さらなる祝福を備えてくださっております。感謝する心で、分かち合い仕えましょう。感謝をもって神様に栄光をささげる我々クリスチャンレイズチャーチの信仰の家族みんなとなりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!